

**苦しむ前に相談を**

認知症の方が住み慣れた家で長く生活できる地域のネットワークづくりが、私たちの一番の仕事。認知症への理解はもちろん、家族の大変さも含めて地域の方に知っていただく活動を行っています。万一、徘徊などがあつた場合でも、誰かが気付いて家族や支援者に連絡することが重要です。

家庭内では、介護の負担軽減やリフレッシュのために家族との距離を置くことも大切。本人も活動をすることで認知症の進行抑制につながります。介護保険では、本人・家族に合ったサービスを提供でき、結局はお互いのためになります。

ずっと1対1もつらいですからね。家族間でも皆で役割分担し、協力していかないといけないと思います。

どうしても恥ずかしいと隠したがる方も多いです。しっかりとっていたときの親の姿を知っているだけ

市地域包括支援センター ☎25-2015

相談は **24時間** 受け付けています

認知症のさまざまな相談に対応する認知症地域支援推進員に話を聞きました。

# どんなサポートを受けますか

介護保険サービスや地域には、認知症の本人や家族を支える存在があります



市地域包括支援センター  
恒松 路子 さん  
栗田 真梨 さん

に、受け入れがたく、人にも知らせたくないと思われる。でもそういう気持ちができる限り持つてほしくありません。声を出して、どこかにつながれば、支えてくれる皆さんの存在が伝わると思います。その都度誰かに声を掛けてもらうことが大事。認知症は早めに対応しないと、どんどん症状が進み、結局は自分が苦しくなります。共倒れになる前に抱え込まずにご相談を。まずは私たちに話してみてくださいね。



企業や学校で認知症サポーター養成講座を開催し、広く周知している 写真は不知火町民生・児童委員協議会

01 徘徊が不安 GPSの貸し出し

靴に取り付けて指定の距離を超えたら家族にメールで通知します。バッグや電動カートなどよく使う物に入れておくこともでき、防水仕様で距離設定も可能。介護保険で1割負担だと月1,200円程度で利用できます。

認知症の方が徘徊して事故が起こることって多いんです。GPSと掛け合わせて迅速に市・警察・消防とサービスが連動できればいいですね。地域が連携する見守り活動にも使っていただきたいです。

福社用具貸与 (株) ひまわり 代表 末松 広大 さん

04 本人・家族みんなが語らう場 認知症カフェ

「ごりょう5区カフェ」ではお茶を飲みながら30分間雑談し、あおば病院の専門家のお話が40分。最後に質疑応答を行います。今はコロナ禍で飲食はできませんが、毎回興味深いテーマの講話でとても勉強になります。

認知症はいつ自分に起こるか分かりません。直面したときに参考にできるよう学ぶことが大切だと思います。地域でも徘徊などに遭遇したときに対応できるように知識を広めていきたいです。

ごりょう5区カフェ 御領5区 区長 松尾 恵介 さん

03 訪問・通い・泊まり対応のサービス 小規模多機能型居宅介護

通いの利用は、8時前や11時くらいからなど、本人と家族の状況に合わせて調整しています。仕事で家族がいない、夜間見られないなどの理由で急ぎよ泊まりの依頼があることも。利用初期の頃は、できるだけマンツーマンで対応。

いろいろ話して本人の思いや状態を確認し、事業所や職員になれてもらう作業を1か月間でやっています。

小規模多機能ハウス きらら 成田 優子 さん 佐藤 誠 さん

02 認知症に特化した通いのサービス 認知症対応型通所介護

施設が楽しいとの声も

計算や漢字、競輪予想などそれぞれの得意な分野でできることをします。認知症が進んで、できなくなったときは、レベルを検討し直して自信を持たせることを大切にしています。午後はお出掛け。真夏なのに秋物を着ている人も外に出れば暑いと分かりますから。季節を感じる、さまざまな刺激を活用しながら在宅生活を送れるようにすることが、自立支援を行う私たちの役割だと思います。

認知症対応型通所介護 オリーブハウス 永石 憲司 さん

見守りSOSネットワークに登録しませんか

事前に登録することで、行方不明になったときに警察や消防団などの関係機関に情報をいち早く提供でき、早期発見・保護につながります。

高年齢介護課 ☎32-1406